



# 西蒲区自治協議会 区ビジョンワークショップ報告

2021.12.23 / 巻地区公民館

## 1. 開催概要

■日時：2021年12月23日（木）14：30～16：30

■会場：巻地区公民館 3F小ホール

■自治協議会委員数：30名／当日出席29名（区職員も含む）

■企画運営：NPO法人まちづくり学校

〈進行〉メインファシリテーター 金子洋二

グループファシリテーター 五十嵐玲子・乙川千香・知野孝子・中村美香・渡邊彩

■達成目標：区の目指すすがたを実現するための取り組みに対し、プラスとマイナスの評価を行い、おおよそ2040年時点の望ましい西蒲区のあり方（将来像の方向性）をまとめる。

■プログラム：次ページのとおり。

現在の区ビジョンまちづくり計画における5つの目指す区のすがたごとに、以下のとおり事前にグループを割り振った。ただし、「V.人の和でつながる安心・安全なあたたかなまち」の「②支え合い学び合う人の和づくり」は4班で扱い、それに伴い5班は、Vの①、③のみ意見交換した。

1班 魅力あふれる農水産物を供給するまち

2班 観光とレクリエーションのまち

3班 歴史と文化を守り伝え続けるまち

4班 人が行き交う活力あふれるまち（+V（2）支え合い学び合う人の和づくり）

5班 人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち

これまでと  
これからを  
考える

## 西蒲区自治協議会 区ビジョンワークショップ

日時：2021年12月23日（木）14：30～16：30

会場：巻地区公民館 3階小ホール

### プログラム

14:30 オープニング

あいさつ・趣旨説明・スタッフ紹介・プログラムの説明

14:40 ワークショップ～西蒲区のこれまでとこれからを考えよう！

#### 第1部

グループ毎に、これまでの取り組みに対する各自の評価を発表し合い、意見交換を行って共有します。

#### 第2部

同じグループとテーマで、概ね2040年くらいの西蒲区の望ましい姿について意見を出し合い、今後の方向性を共有します。

16:00 グループワークの結果発表

1グループ3分以内で意見交換の結果を発表していただきます。

16:20 クロージング

ふりかえりシートの記入・事務連絡など

16:30 終了



■ワークショップのようす



## 2. グループワークのまとめ

### ■目指す区のすがたに対する今後の方向性（一覧）

#### I. 魅力あふれる農水産物を供給するまち

- 「にしかんなないろ野菜」は種類や差別化を再検討し、さらなるブランド化を図り、魅力を広くPRする。
- 「にしかんなないろ野菜」を西蒲区の魅力商品として観光事業とタイアップし、観光客を誘客する。
- 「農地の集積と経営の合理化」を推進する支援や補助体制を利用者目線で活用できるように再検討し、離農者と新規参入者を受け入れる仕組みをツール化する。
- 圃場の基盤整理は、自分の土地という感覚から西蒲全体で考える方針を行政と民間で話し合い、目線を合わせた政策を図る。

#### II. 観光とレクリエーションのまち

- にしかん観光の必須ツールである二次交通は更なる利便性を補完しながら継続する。
- 観光客に刺さるよう新たな目線で見せ方の工夫を行いながら魅力の拡大を図る。また観光コンテンツによってターゲットを定めた戦略的な情報発信を行う。
- 「健幸都市づくり」を推進するこれまでの事業を継続し、具体的な目標を数値化しながら様々な世代にアプローチし、参加者への張り合いを持たせる。
- 行政と民間の連携で新たなプログラムを開発すると共に、SNSによるPRを継続し新規参加者を増やす。

### III. 歴史と文化を守り伝え続けるまち

- 子どもたちを中心とした後継者を計画的に育成する。
- 伝統文化等のあたらな発掘・適切な収集と保存を行ない SNS などでの発信を行ったり、まち歩き等に活用し、若い人に知ってもらう工夫を行う。
- お互いのお祭りなどを教え合い、情報共有をしながら、地域の一体感を盛り上げる。

→実は合併したお互いの地区のことが分からない。なので、各地区の祭りを実施した際、新しい取組で良かったことや不十分だったことを、お互いに情報共有して、地元の活動に活かしていくことで、悩みややり方などを学び合えるようになることが必要だ。

### IV. 人が行き交う活力あふれるまち

- 小旅行の楽しさ溢れるまち。時速 60 キロから時速 10 キロのまちへ。それぞれの生活に即して自由に動くことができ、また、多世代が自ずと交流するような環境・交通手段の整備を進める。これに加えて、他地域との交流人口を増やすために、それぞれの観光資源を見直し、西蒲区全体としての観光方策を検討していくことが必要である。

### V. 人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち

- 住民同士が支え合い思いやりを持って暮らすことができるように生活基盤づくりをする。切れ目のない防災教育、訓練を行い一人一人の防災意識を高めていく。子育てしやすい環境作りと、どの世代も参画できる「住民が主役」の地域づくりのため、人材育成や取り組み、支援を行っていく。人の繋がりを大切にしたい顔の見えるまちづくりを進める。

■各グループの意見と集約

I. 魅力あふれる農水産物を供給するまち

方向性のまとめ	<p>○「にしかんなない野菜」は種類や差別化を再検討し、さらなるブランド化を図り、魅力を広くPRする。</p> <p>○「にしかんなない野菜」を西蒲区の魅力商品として観光事業とタイアップし、観光客を誘客する。</p> <p>○「農地の集積と経営の合理化」を推進する支援や補助体制を利用者目線で活用できるように再検討し、離農者と新規参入者を受け入れる仕組みをツール化する。</p> <p>○圃場の基盤整理は、自分の土地という感覚から西蒲全体で考える方針を行政と民間で話し合い、目線を合わせた政策を図る。</p>
---------	--

これまでの取り組みの評価		今後の方向性			
		個別意見	方向性のまとめ		
<b>(1)ブランド力向上と交流促進</b>					
売れるものづくり	ブラス	<p>「にしかんなない野菜」は他にはない新たな取組みで、めずらしい野菜とネーミングが良い。</p> <p>販路拡大の出展や野菜の使い方、イベントなどの活動は良い。</p> <p>市報や販売促進の活動で「にしかんなない野菜」を周知することは、販路拡大になるので良い。</p>	<p>・なないろ野菜は他にない取組みである。</p> <p>・なないろ野菜の取組みの米、越王柿に続く新たな農産物を作り出す試みはよかった。</p> <p>・にしかんなない野菜のネーミングが良い。覚えやすい。</p> <p>・なないろ野菜はめずらしい野菜だし、キレイ。</p> <p>・新メニューの開発(なないろ野菜を利用した)家庭料理のレシピや使い方をPRしたのは良い。</p> <p>・フードメッセ、越王の里での販売や出展など、なないろ野菜DAYなど実施していることは良かった。</p>	<p>【「にしかんなない野菜」の数を絞り、魅力を広くPRする】</p> <p>・特色あるものを生産して加工品の開発(6次産業化)</p> <p>・なないろ野菜の具体的な栄養価を調べる。他と差別化を図る。</p> <p>・なないろ野菜の数を絞ってPRする。</p> <p>・区内のレストラン、学校給食などで利用してもらおう。</p> <p>・「にしかんなない野菜」を市報で周知することを継続して取り組む。</p> <p>【「にしかんなない野菜」を目玉商品にして、観光客を呼び込む】</p> <p>・なないろ野菜は、利益を目指すのではなく、温泉で提供するなど宿泊客の獲得行い、観光とマッチングする。</p>	
	マイナス	<p>生産量と生産者の拡大を図り、販売場所の拡大が必要。</p> <p>今後は生産者の高齢化による生産量の確保が必要。</p> <p>販路拡大方法として、JAと連携する必要がある。</p> <p>なないろ野菜の種類が多く分かりづらいため、イメージできるようにする必要がある。</p> <p>売上が少ないのは販売していないのか、需要がないのか分からない。売上を上げる工夫と生産者への売上確保(生産体制)が必要。</p> <p>使い方レシピは簡単で分かりやすい方が良い。</p>	<p>・「にしかんなない野菜」を市報で周知することは、生産者の増加や販路拡大になるのでよい。</p> <p>・売れるものづくり、なないろ野菜の名前を知られた。</p> <p>・“こしわの里”のみの販売で、普段利用するスーパー店頭でみかけないので買えない。</p> <p>・西蒲区であまり作られていないし、売られていない。</p> <p>生産者の高齢化？生産量は確保できるのか。</p> <p>「にしかんなない野菜」を増やす為にJAなどと連携し、西蒲区内全域に広げる必要がある。</p> <p>・なないろ野菜にどんなもの(種類)があるのか知らない。分からない。</p> <p>・各々の野菜の魅力が今ひとつ伝わってこない。50種類イメージできない。</p> <p>・なないろ野菜とは？ひとつだと覚えやすいのでは？</p> <p>・名前が知られていないのではないのか。50品種もあるの？どれを指してなな色といっているのかわからない。</p> <p>野菜の売上げが少ない。売上1人/3万円？需要がなければ生産者をつくらない？売ってないのか？</p> <p>主婦は難しい料理は作らない。</p>		
	ブラス	市民農園の利用者が多くなり良かった。	交流促進、利用者が多かった。市民農園		
	マイナス				
	ブラス				
	マイナス				



(2)担い手の強化・育成				
意欲的な 取り組みへの 支援	ブ ラ ス	「にしかん農業 環境配慮共同宣言」は、農業従事者と一般市民の理解が進み良かった。  農地中間管理機構を利用し、法人化や担い手への合理化が図れる。  新潟市の補助制度を使い、「元気な農業応援事業」等、経営の効率化や安定化を図れるので良い。  新規参入農業者の確保にむけたマッチング支援は良かった。  担い手が安心して働ける仕組みは大切。	「にしかん農業環境配慮共同宣言」の策定。農業従事者と一般市民の理解が進んだ。  ・「農地中間利用」で経営の会社化が進んだ。離農者と農業者の橋渡しができた。 ・農地の集約化や法人化は継続的営農には必要不可欠。 ・法人化の推進は必要なこと。  「元気な農業応援事業」等、経営の効率化や安定化を図れる新潟市の補助制度は良い。  ・有休農地、耕作放棄地に対して、新規就農者のマッチングは良かった。 ・新規参入農業者の確保にむけた取り組み。若い人が少し増えたかな。  生産組合で若い人が健保(社保)で働くのがよい。	【法人化を5～9つに大きくする】 ・生産組織に社会保険を全部入れる。 ・個人経営では後継者・規模拡大も限界のため、法人化を図る。 ・西蒲区の生産組織を大きくして、雇用を拡大する。 ・地域おこし協力隊など新規参入の農業従事者を増やす。  【個人経営者のサポートが必要】 ・個人経営者のサポートを行う。 ・小規模農家の農業機械をリース(シェア)する組織を作る。 ・機械化をすすめる。(自動化) ・後継者不足の所に新規参入者が入る。(離農者支援) ・新規就農者が軌道に乗るまでの補助、融資制度(2～3年間)返済なしなど。
	マイ ナ ス	「農地中間管理機構」を活用する仕組みができていない。  「にしかん農業 環境配慮共同宣言」が行っている新潟市補助制度の周知を図る。  経営者が補助制度を活用しやすい内容に検討する必要がある。  法人化の推進は必要。  法人化のメリットを理解できるツールが出来ていない。	・担い手を育てる人が少ない。 ・農業従事者の高齢化 減少がすすむ。リーダーになる人が減ってきている。  有休農地、耕作放棄地に対して、新規就農者のマッチングをもっと行うために周知が必要。  ・経営者が補助制度を活用しやすい内容に検討する必要がある。 ・他地域との差別化がない。どこでも同じ。  法人化の推進  ・あまり、もうかった成功運営事例がない。法人化やってみようという気にながらない。 ・新規参入農業者が営農につながるまでも問題山積み。自立が難しい。 ・意欲的な取り組み 一般市民との環境農業が進んでなかった。	
	ブ ラ ス			
	マイ ナ ス	・一反補助区画の見直しが必要	高齢化、後継者問題は、一反補助区画が少ない為、効率が悪い。	
	ブ ラ ス			
	マイ ナ ス	農業、水産業の交流 あまり交流がなかった。		
	ブ ラ ス			
	マイ ナ ス			

II. 観光とレクリエーションのまち

方向性のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にしかん観光の必須ツールである二次交通は更なる利便性を補完しながら継続する。</li> <li>・観光客に刺さるような新たな目線で見せ方の工夫を行いながら魅力の拡大を図る。また観光コンテンツによってターゲットを定めた戦略的な情報発信を行う。</li> <li>・「健幸都市づくり」を推進するこれまでの事業を継続し、具体的な目標を数値化しながら様々な世代にアプローチし、参加者への張り合いを持たせる。</li> <li>・行政と民間の連携で新たなプログラムを開発すると共に、SNSによるPRを継続し新規参加者を増やす。</li> </ul>
---------	---

これまでの取り組みの評価		今後の方向性	
		個別意見	方向性のまとめ
<b>(1) 観光資源の開拓と保全</b>			
魅力の拡大・発信	<b>プラス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然や施設等を巡る観光周遊バスの運行、集客ができた</li> <li>二次交通として「ぐるーんバス」を運行し弥彦村まで延伸できた</li> <li>観光資源を巡る周遊バスを運行することができた</li> <li>区内の主要な観光資源をトータルで考え、新潟空港と新潟駅と連携して誘客促進を図った</li> <li>周遊バスの取組が良かった</li> <li>乗合タクシーで空港、駅から目的地までのアクセスが充実した</li> <li>乗合タクシーの運行が誘客の促進につながった</li> <li>観光地名所マップは効果があった</li> <li>地域の魅力、宝物を発掘・発信する機運が整ってきた</li> <li>まちあるきガイドの団体が4つ増えネットワークが強化され盛んになってきた</li> <li>旅行者からガイドの会にガイドの要請がくるようになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【インフラ整備】</li> <li>・JR巻駅、JR越後曾根駅の改修が必要である</li> <li>・海・空・陸の各拠点から区内観光地への交通整備が必要である</li> <li>【交通手段】</li> <li>・周遊バスのルートについては戦略的な目線での拡大の必要性がある</li> <li>・駅や港を拠点として区内観光地へのシャトルバスを確立する</li> <li>・観光周遊バスの本格実施は必須である</li> <li>【誘客のための施策】</li> <li>情報発信</li> <li>・若者世代を誘客するための「映えスポット」の構築</li> <li>・総合的な(俯瞰的な)パンフレットの作成・配布</li> <li>・目につく面白看板の作成</li> <li>・観光地でお客様と地元と一緒に楽しめるイベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にしかん観光周遊バス、乗合タクシーについては、集客に効果が出ており新潟空港、新潟駅からの二次交通としての必須ツールであることから、更なる利便性を追及しながらも継続を図っていく。</li> <li>・魅力の拡大については、行政や観光協会などとの横の連携をしっかりと行いながら、他観光地との差別化を図るためのキラーコンテンツ等の構築やイベントの開催、既存の観光地や観光施設の戦略的な活用などで、観光客に刺さるような「新たな目線による見せ方の工夫」を行っていく。</li> </ul>
	<b>マイナス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦略的な「ぐるーんバス」の停車個所となっていない</li> <li>点在する観光資源を有機的に結ぶことができていない</li> <li>区内の観光資源活用が不十分である</li> <li>旅行社への取組が弱い</li> <li>観光に関して行政、観光協会との連携がなかった</li> <li>SNSの活用などの情報発信の方法が少ない</li> <li>若者や親子向けのコンテンツをトータルでPRできていない</li> <li>遺跡は多いが看板の設置がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力の拡大</li> <li>・山を観光資源として活かし魅力をアップする</li> <li>・西蒲区の自然を活かした新たな観光コースを策定する</li> <li>・新潟市の観光の「大拠点」となって全国有名温泉地にする</li> <li>・「こいがた2キロ」の奥座敷としての運動PRを行う</li> </ul>	
新たな観光ニーズへの対応	<b>プラス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「矢垂の郷」を観光スポットとして整備しイベント参加者が増えてきた</li> <li>「上堰潟」の桜、菜の花、わらアート展が知られてきて観光地になってきた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【交通手段の開拓】</li> <li>・未来に向けて渋滞緩和のための「空飛ぶぐるーんバス」の運行を模索しても良い</li> <li>・海から見る景色を楽しむためのクルーズ船運行も魅力となる</li> <li>【誘客のための施策】</li> <li>・少子高齢化が進む中でマイクロツーリズムを進めていく</li> <li>・温泉街でのカジノ等の設置</li> <li>・インバウンドを見据えた「移民施策」を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信については、Instagram、Twitterは若い世代、Facebookは中高年層が多く活用する傾向があるなど、世代によってSNS活用の傾向が異なるという実態もあることから、総花的ではなく「観光コンテンツによってターゲットを定める」という視点を持ち、フォローワーの分析を行うなどしてよりきめ細かい継続した情報発信を行っていく。</li> </ul>
	<b>マイナス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>他区との共同アピールが見えない</li> <li>点在する観光資源を有機的に結ぶことができていない</li> <li>区内の観光資源活用が不十分である</li> <li>岩室温泉でのイベントが少ない</li> <li>観光の目玉が不明確である</li> <li>上堰潟での消費が少ない(BBQの材料を売るなど)</li> <li>上堰潟でBBQを行う場所の拡大</li> <li>「上堰潟」は駐車場不足、交通渋滞がある</li> <li>「矢垂の郷」でイベントを実施した場合駐車場の確保が課題</li> <li>区内消費増、経済効果などを検証し、総括ができたか疑問</li> </ul>		
環境保全・環境教育	<b>プラス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちへの環境教育ができた</li> </ul>		
	<b>マイナス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちへの環境教育の全区的な展開ができていない</li> </ul>		

(2) 健康の増進とスポーツ・レクリエーション			
スマートウェルネスシティ(健康都市づくり)の推進	プラス	健康増進のための場所有り、体力に応じた変化のある施策ができた 健康は基本であることからPRも上手くできた 体操教室、生活習慣病予防教室、ランニング教室など各教室の開催は良かった	<b>【各事業の充実】</b> ・体操教室、生活習慣病予防教室、ランニング教室などは継続して行う必要がある ・市でもスポーツレクリエーションを意識して事業を行ってほしい ・年間を通じた事業展開がほしい ・年間を通じて県内外からスポーツ合宿の企画を考える ・心が通うように区全体で運動会的なスポーツレクリエーション祭を開催する <b>【高齢者へのアプローチ】</b> ・高齢者を主体にして「元気な高齢者」を目指す教室の開催 ・区内のサロン・お茶の間などに保健師等がブッシュ型で訪問し、保険増進の拡大を図る ・「健康寿命日本一」の区となるための研修を行う ・もっと地域の茶の間を活用してはどうか ・「長寿大学」を開催し、高齢者が各々得意分野の学部をつくり講師となる <b>【子どもへのアプローチ】</b> ・子供が増え町中にあふれ活気のある区にする <b>【情報発信】</b> ・SNS、YouTubeなどをより活用した県増進などの周知を行う
	マイナス	コロナ禍で教室形式での取組が制限されてしまった 魅力ある教室の開催が必要である	
健康寿命の延伸	プラス	生活習慣病、健康寿命延伸のための教室、体操の継続は大事である	・「健康都市づくり」推進のため、これまでの体操、生活習慣病予防、ランニングといった各教室は内容を工夫しながら今後も継続する。 ・高齢者・子供・区全体へのアプローチをそれぞれ工夫し各世代が興味を持つ事業内容にする。そして参加者に張り合いを持たせるため、また参加者を増やすために「現状・目標値・結果」を数値化してこまめに公表する。 ・行政と民間の連携により新たなプログラムを開発するなどして通年の事業展開を行っている。 ・SNSを使い、生涯スポーツ・レクリエーション等に関心のない人へのPRを継続して行う。
	マイナス	区特有の脳疾患患者への効果があったのか不明	
スポーツとレクリエーションの普及・推進	プラス	ウォーキングの取組で習慣化され良かった スポーツを通じた健康づくりを実感した	・室内外のスポーツ施設の不足 ・スポーツ合宿をする場所がない ・生涯スポーツ・レクリエーションを通じて多世代交流が促進されたのか不明 ・区民が運動習慣を身に着けることができたのか不明 ・関心のない人も引き付けるPRが不足している
	マイナス		

Ⅲ. 歴史と文化を守り伝え続けるまち

方向性のまとめ	<p>○子どもたちを中心とした後継者を計画的に育成する。</p> <p>○伝統文化等のあたらな発掘・適切な収集と保存を行ないSNSなどでの発信を行ったり、まち歩き等に活用し、若い人に知ってもらう工夫を行う。</p> <p>○お互いのお祭りなどを教え合い、情報共有をしながら、地域の一体感を盛り上げる。</p> <p>→ 実は合併したお互いの地区のことが分からない。なので、各地区の祭りを実施した際、新しい取組で良かったことや不十分だったことを、お互いに情報共有して、地元の活動に活かしていくことで、悩みややり方などを学び合えるようになることが必要だ。</p>
---------	---

これまでの取り組みの評価		今後の方向性		
		個別意見	方向性のまとめ	
<b>(1) 歴史・文化資源の保全と活用</b>				
歴史・文化の保全と活用推進	プラス	越後西川笠鉦祭行列が続いていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化・文政年間に始まるもので、現在に至るまで連続と続いている。</li> <li>・費用は傘鉦・町内屋台とも笠鉦伝承会と各町の負担。</li> <li>・西川祭だけですどにい阿玉吊り、長岡まつり意にも参加。</li> <li>・15年前県内の傘鉦を集め、傘鉦サミットを開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存には、おおむねお金が付けられている。</li> <li>・地元之宝をきちんと発掘しよう。→増えていこう。</li> <li>・「まち」で行っていた伝統文化を繋げていこう。</li> <li>・子どもたちに教える、体験することに補助金をつけてほしい。</li> <li>・私的財産(民俗的な文化財)を集める機会を増やしていく。</li> </ul>
		史跡、神社仏閣、伝統的まつりなど、歴史的な文化、工芸などを大切に守り、継承していること。	ミニランドセルづくりの現代工芸、水引を使つての工芸、下山の賽の神火祭り	
		歴史や文化を学ぶ講座を開催し、高い満足度を獲得した。	歴史や文化を学ぶ講座を開催し、高い満足度を獲得した。	
		歴史や文化を学び、まち歩きガイドとして生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち歩きガイドグループができてベースが作られていると思う。</li> <li>・北国街道などのまち歩きツアーが行われている。</li> </ul>	
		文化や祭りの経費が補助されていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金を出すことによって文化財が修繕され良い状態で残されることは良い事だ。</li> <li>・老朽化した機材の更新など保存に向け一定の成果がある。</li> </ul>	
		様々なものが保存されていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜地区で昔の毒消しの行商等の話し、及び道具の保存がされている。</li> <li>・みそ、塩、器物等、作り方、道具など保存されている。</li> <li>・各地域に保存されている蔵、石仏(石物)、稲作道具等、写真等も保存されている。</li> </ul>	
		海外でのプロモーションなど積極的に誘客に努めたこと。	海外でのプロモーションなど積極的に誘客に努めた。	
	定期的な展示会が開催されていること。	定期的な展示会が開催されている。		
	マイナス	コロナ禍で継承の場や学びの場を失ったこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のぞきからくり口上講演や体験が中止になった。</li> <li>・コロナ禍でも育成支援策を検討すべきだ。</li> </ul>	
		日頃から目に触れるように展示場所を上手に選択すること。	のぞきからくりは、以前は文化会館にあり、目に触れる機会が多かったが、資料館の展示だとなことさえ分からない人がいる。	
		小・中学生に教える機会が少ないこと。	小・中学生の授業にもっと取り入れた方がよい。	
		現在各地域にある伝統文化財を破棄・破損している現状を知らないこと。	現在各地域にある伝統文化財を破棄・破損している現状を知らないこと。	
		まだまだ地域にある宝を発掘し、活かされてないこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間瀬石切り場、間瀬銅山跡、</li> <li>・先人の200年に及ぶ壮絶な戦いの上に築かれた神原平原の活水事業の歴史を学ぶ。(樋曾山隧道)</li> <li>・新潟市を代表する遺跡密集帯をなす角田山東ろくの道跡群を活かす。</li> </ul>	
		満足度の高い講座は複数回開催すべきこと。	満足度の高い講座は複数回開催すべき。(もっとPRして)	
保存に対しての費用が多くかかっているが、足りていないところもあること。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在文化財、歴史的物品等が各地にあり、保存に対して費用が多くかかっていること。</li> <li>・保存活動などに対しての費用が足りていないこと。</li> </ul>		
担い手不足であること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋台行列は人口減で赤信号。8トンの屋台を引くには大人10人、子ども10人、楽人6人が必要だが、現在は困っている。</li> <li>・祭りの人材育成を図ること。</li> </ul>			
プラス	歴史や文化を学ぶ講座を開催し、高い満足度を獲得したこと。 【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち歩きガイドグループができてベースが作られていると思う。</li> <li>・北国街道などのまち歩きツアーが行われている。</li> </ul> 【再掲】		
	小学生に教えていること。 【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みそ、塩、器物等、作り方、道具など保存されている。</li> </ul> 【再掲】		

人材育成 (語り部等 の育成)		歴史や文化を学び、まち歩きガイドとして生かしていること。 【再掲】	・まち歩きガイドグループができてベースが作られていると思う。 ・北国街道などのまち歩きツアーが行われている。 【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに教える、体験することに補助金をつけてほしい。</li> <li>・小・中学生を対象にする。</li> <li>・男の子限定の役割も女の子もやってもらえるようにする。</li> <li>・地域外の若い人との交流を活発に行い、マンパワーを確保する。(今は新大や情報大生との交流がある)</li> </ul>
	マイナ	文化財歴史的なことを知る・教える機会が少ない。【再掲】	・文化財歴史的なことを知る機会が少ない点で、詳外(原文のまま)事業で教える機会がない。 【再掲】	
	ス	担い手不足であること。【再掲】	・屋台行列は人口減で赤信号。8トンの屋台を引くには大人10人、子ども10人、楽人6人が必要だが、現在は困っている。 ・祭りの人材育成を図ること。 【再掲】	
		コロナ禍で継承の場や学びの場を失ったこと。【再掲】	・のぞきからくり口上講演や体験が中止になった。 ・コロナ禍でも育成支援策を検討すべきだ。 【再掲】	
		小・中学生に教える機会が少ないこと。【再掲】	小・中学生の授業にもっと取り入れた方が良い。 【再掲】	
<b>(2) 次世代への継承に向けた文化活動支</b>				
地域文化 活動への 支援	プラス	活動に経費補助があること。	和納地区の神楽の活動に経費補助がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存するため、こども育成にお金をつけてほしい。</li> <li>・住民も一緒に成長していきたい。</li> <li>・世代から世代に教えよう。</li> <li>・祭りは地域の中で一体感を産めるようにしていきたい。一体感がないと住みよくない。</li> <li>・地域外の人に知ってもらうことで地域の歴史や文化を知ることになる。</li> </ul>
		地域活動補助金制度が利用できることで文化が継承されていること。	・地域活動補助金制度が利用できることで文化が継承されている。 ・補助金制度によって地域・主催者側がやりやすく、はりあいが出る。(地域活性化)	
		文化財等を知り小・中・高等学校生にまち歩き等で教えたこと。	・現在残っている文化財等を知り、小・中・高等学校生にまち歩き等で教えた。	
		小・中学校の生徒に傘鉾クラブがあり、傘鉾を寄贈し、指導を行っていること。	・小・中学校に傘鉾クラブがあり、傘持ちを指導している。	
	マイナ	傘鉾の人形作りの担い手がいないこと。	・越後西川傘鉾は花傘。傘の上には人形があるがその人形作りがない。	
		文化や祭りの経費の使われ方が分からないこと。	文化や祭りの経費がどんなことやどんなものに使われているのかが分からない。 人材育成にも使われているのかが分からない。	
		SNS等を利用した情報発信が不足し、若い人に届いていないこと。	・SNS等を利用した情報発信が不足していること。 ・SNS、HPをもっと活用し若い人の目に触れるようにしたらどうか。 ・潟東の「かもん！カモねぎまつり、どろんこカップ」などは県外の人たちの協力で盛り上がったが県外に行った人が帰省することにはつながらなかった。	
		次世代へのつなぐための子どもたちの育成に対する取り組み(後継者育成)が長期的計画がないこと。	・次世代へのつなぐための子どもたちの育成に対する取り組み。 ・後継者育成のための長期的な計画がないこと。 ・伝統芸能の次代を担う小中学生へのアプローチを強化したい。	
		文化祭等がコロナの影響で中止になり、伝統文化・芸能等に触れる機会を失ったこと。	・文化祭等がコロナの影響で中止になったこと。	
		文化財、歴史的事実を知る機会が少ないこと。	・文化財、歴史的事実を知る機会が少なく課外授業で教える機会が少ないこと。	
		課外授業で教える機会が少ないこと。	・文化財、歴史的事実を知る機会が少なく課外授業で教える機会が少ないこと。	
		参加団体に向けた具体的な取組がないこと。	・参加団体に向けた具体的な取組がないこと。	
		民俗を掘り起こしきれていないこと。	・文化・伝統は今と昔の対話。残念ながら昔あった民俗が消えつつある。それを掘り起こすことが大事。 ・今の文化伝統は昔の文化伝統を知る事により初めてその価値が分かってくる。	
		補助金対象になっていないこと。	・西川傘鉾は市の助成金ナシ。「政教分離」で区役所から断られた。 ・「各地の祭り・文化の保全普及の経費補助」とあるが西川地域にある文化伝統についての経費補助はまったくない。 ・傘鉾は神事ではない。古事記の昔から伝統行事はすべて起点は祭である。 ・予算がないため、傘鉾・屋台などの修理が厳しい。	
		地域の一体感情勢をすること。	浜メグリなど移住者が主体となって活動をする場合もある。	
	人と金がない(足りない)こと。	・人と金がない(足りない)こと。		

IV. 人が行き交う活力あふれるまち

方向性のまとめ	小旅行の楽しさ溢れるまち。時速60キロから時速10キロのまちへ。それぞれの生活に即して自由に動くことができ、また、多世代が自ずと交流するような環境・交通手段の整備を進める。これに加えて、他地域との交流人口を増やすために、それぞれの観光資源を見直し、西蒲区全体としての観光方策を検討していくことが必要である。
---------	---

これまでの取り組みの評価		今後の方向性		
		個別意見	方向性のまとめ	
<b>(1) 西蒲区の実情に合った交通環境の整備</b>				
公共施設の 利便性の 向上	ブ ラ ス	利用者ニーズに見合ったルート・ダイヤの見直しはよかった	トクトクの巡回で乗り合い交通システムをつくる。	現在のバスの運行、キャッシュレス決済・ルートダイヤの見直し、学校への運行、巻き潟東インターの駐車場維持管理は評価でき、維持していく。ただ、現在のバスは放射線状に走っており、環状になっていない。また、細かい接続も不十分であるし、他地域との接続、道路と鉄道の接続も不十分である。よって、細やかに接続できるための新システムを導入することを提案する。具体的にはトクトクのような小規模の乗り物によって移動手段を確保するとともに、要所に駅をつくり、茶の間と兼ねるようにすることで多世代交流を促していく。
		福祉バスの巡回はよい	バスよりもコンパクトな乗り物	
		キャッシュレス決済を行い利便性が向上	アプリで乗り合いできる仕組みをつくる	
		収益率が低くてもバスを運行している	4~5人用をつくる	
		巻潟東インター大型無料駐車場の維持整備	車の色で路線を分ける	
		巻高校前まで運行	医者巡り、スーパー周り、学校周りなど	
	マ イ ナ ス	区内のJR駅と路線バス高速バスが活用されていない	酒蔵で飲んでも巡れる	
		バスに乗る利用者が減少	運転手は2種免許が必要	
		ルート・ダイヤが知られていない	代行業者に依頼	
		路線バスの本数が少ない	西蒲区だけでなく西区・南区と連携する	
		免許状を返却しても自動車がないと不便	高速バスの駐車場からすぐ動けるように	
		新交通システムを考えるべき	広告料で運営経費を賄う	
<b>(2) 商工業の振興</b>				
製造業等 の活性化	ブ ラ ス	国道に大型店出店により賑わいや雇用が生まれている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源はある。案内をしっかり作る。</li> <li>・西川は空が広い。平地を利用する。</li> <li>・一体化して連携したプランづくり</li> <li>・～しかないが魅力</li> <li>・農家民宿体験で繋がりが続く</li> <li>・修学旅行誘致</li> <li>・外からの観光の目玉づくり</li> </ul>	地域の資源の積極的な活用と発信を通して、新しい担い手によるチャレンジを誘発していく努力が必要である。また、西川地区については観光の目玉として農業体験を視野に入れて、西蒲区のそれぞれの地域の特色を生かしながら、総合的に観光エリアとして整備していくことができるとよい。
		街路灯・LED等の助成金		
		新規開業の促進は発展のために良かった		
	マ イ ナ ス	照明のLED化により電気量の削減。環境にも優しい。		
		航空機関連産業の立地		
		観光を中心とした取り組みは努力が見られる		
積極的な企業誘致活動による商工業の振興を行った。	農業に比べて助成が少ないように感じる			
ブ ラ ス	農業に比べて助成が少ないように感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジしてみる土壌をつくる</li> <li>・空地の税金を安くする</li> <li>・プチ起業を支援する。女性は特に、体感できるとよい。</li> <li>・岩室温泉街、ふらふらできるように。</li> </ul>		
	プチ起業・スモールビジネスの支援や仕組みづくりがない			
	事業継承活動不足か？			
商店街の 活性化	ブ ラ ス	第四北越銀行を総務課に。	商店街については復興ではなく、新たに開業したい人・移住者を支援できる体制を整える。これに加えて、行政が商店街の中心地に入ることによって人が来ざるを得ない環境をつくることも一案である。	
		まちなか区役所をつくる。		
	マ イ ナ ス	小さなエリアをつくりチャレンジできるようにする。		
		ここで仕事できるサポートをする。		
高齡化社会買い物難民				
商店の廃業				

V. 人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち

これまでの取り組みの評価		今後の方向性				
		個別意見	方向性のまとめ			
<b>(1) 安心安全で快適な生活基盤づくり</b>						
災害対策の強化	プラス	中学生対象の防災訓練は良かった 中学生対象とした防災教育は有意義。即戦力として避難所運営体制の一員になれる 防災訓練の実施が増えた 防災教育を行った点 災害時、避難所での子ども達の力はとても役に立つと思うので小学生を対象とした防災教育はよいと思いました 学校を防災学習の場とすると防災意識を植え付けられる 防災教育は継続的に実施して行って欲しい 地域の防災訓練も活発に行われていた	中学生は話を聞いてすぐに動ける力もあるのでいざという時に力になってくれると思う。 以前より防災意識が高まってきている。 小・中学校、地域一緒に防災訓練を。 中学生以降と地域とつながりを持てる一助けあえる 一人一人が防災意識を持てる幼児期からの教育 小1から防災学習をしていけば成人した時、いざと言う時、頼もしい存在となる。 小・中学生の防災訓練の充実	一人一人の防災意識を高め災害時において迅速で的確な対応に繋がっていく。幼児期から小学生、中学生と切れ目のない防災教育と訓練を地域と連携し継続した取り組みを行う必要がある。		
	マイナス	中学校に限らず小学校から防災教育を定着させるのが望ましいと感じる 中学生以降の担い手教育は？(防災) 西蒲区→柏崎原発は50km圏内。それは考えている？	・防災学習の場を小学校や保育園にも防災意識を植え付けるために必要だ。 ・防災教育に偏りがある。 ・小さい頃から防災教育や訓練が必要。 災害にはいろいろある。原発も50km圏内なので、何かあったとき、どうするのかも話し合ったり考えておく必要がある・原発事故への対策協議→無理ならやめる。			
	プラス	新潟市防災士の会西蒲支部が12/7発足した 防災士配置を目指す自主防災会、増 避難所・運営委員会の組織化、準備	自主防災訓練への助成により地域の自主防災組織の結成が進み、防災訓練の実施が増えた。		新潟市防災士の会西蒲支部が発足し、防災士配置の自主防災組織が増加したことは評価できるが、地域により意識の低下や訓練のマンネリ化が見られる。組織としての機能を活かし、実践につながる訓練ができるよう、情報交換や技術向上のための組織改革、整備の見直しが必要である。	
	マイナス	自主防災組織、訓練はすでにマンネリ化 自主防災組織はあるものの機能していない自治会が多い 防災組織結成率100%を。行政支援、急務 防災士登録数が少ない 避難所における現地検討会の成果を感じられない。その後の支援も必要です 自主防災組織体制の活動費も助成だけでは維持は難しい	区内の防災士の情報交換と技術向上のため、防災会組織の整備を図れないか。 防災士取得への助成を上乘せできないか。 区内の小学校、中学校と避難所運営委員会との合同訓練を行うことによって児童生徒の積極的な防災意識の向上が図られるのではないか。			
	プラス	防犯カメラの設置数が増えた 昨年度コロナのため中止になっていた交通安全教室が今年度はどこおりに行われた	空家利用と促進			
	マイナス	交通安全指導員の高齢化 青色パトロールカーによる交通安全パトロールができなくなった 交通安全指導員の扱いが昨年度から変わったか変わってしまったため、多くの指導員が辞めてしまった 交通安全教室、実施数少ない 交通安全指導員が少なく、残っている指導員で幼稚園、保育園、小・中学校の交通安全教室を回している	コロナ禍で仕方がないのかも知れないが交通安全教室は必要なこと。 少なくなった交通安全指導員であちこちの教室を回しているのが大変だ。			
	暮らしやすい環境整備	プラス	ごみの減量・分別。資源化の周知 ごみの減量化を進める動き		・脱プラスチック、コンポストの利用 ・ごみを出さない生活 ・ごみ減量化とSDGsの取り組み、2030年の到達点 ・鯉沼クリーンセンターは？(今後)	ゴミの分別、減量化、資源化を更に進めると共にゴミを出さない工夫を考えSDGsの取り組みを実施していく。
		マイナス				

(2) 支え合い学び合う人の和づくり				
子育てを応援しあえる環境づくり	ブラス	子育て支援事業の成果 子育て支援事業 子育ての孤立化・不安感の解消につながる取り組み	少子高齢化が進む中、子育て支援事業は大きな意義を持っており、成果をあげているが、引き続き支援の強化が求められる。 空家利用と促進	子育て支援事業は大きな意義を持ち成果をあげているので継続して進めていく。また今以上に制度内容や相談窓口がわかりやすく周知されることや必要な時に必要な人に届けられるよう、丁寧で柔軟な運用、支援の強化が求められている。
	マイナ	子育て支援事業やまちづくり推進事業などの制度の周知や相談窓口の案内 地域で子育てをするという視点があってもよいのでは？	制度の周知や相談窓口の案内などを丁寧に行ってほしい。 支援不要とした人でも途中で随時支援を受けられるよう柔軟な運用をしてほしい。	
高齢者や障がい者を地域で支える仕組みづくり	ブラス	高齢者の健康教室による交流 地域の茶の間が増えたこと 高齢者へのケア体制は有効 社協等 子育て・高齢者・障害者等サービスが多くなった	核家族化がすすみ孤独に陥りやすい高齢者にとって、地域での交流は大切になってきており、健康教室や地域の茶の間は成果をあげている。 インセンティブを与えるなど健康教室や地域の茶の間の参加を。うながすような制度を検討できないか。	高齢者を孤立化、孤立化させず、健康的な生活が持続できるよう、交流と健康づくりの場の活用を積極的に進めていく。 小規模の交通システムを利用することにより、自然につながりが生まれ、多世代交流ができるようにする。
	マイナ	多世代交流の場がない 社会のバリアフリー化 区内公共施設にエレベーターいくつある？2 番線降りたら階段を登らなきゃいけない。 役員がいつも一緒	バス・交通の要所を中心に茶の間をつくる。	
地域ぐるみの「学び合いの場」づくり	ブラス	地域の茶の間での交流 自主防災組織の設立やコミ協の充実により合併後の新しい地域のつながりができてきた	地域の組織の役割を次世代につなげる教える場を。	地域の茶の間が多世代交流の場となり、孤立化や疎外感の解消と繋がっている。世代をつなぎ、伝統や暮らしの中の学び合いや生きがいの場となっているため、存続の心配なく活動しやすいサポートの継続が必要である。
	マイナ	各種学びの場の参加者がマンネリ化しているのでは？		
生涯学習の推進	ブラス			子ども達が主体的に考え、遊び、学べる場を増やしていくことが、未来の地域作りにつながる。次の世代を育てる機会や場づくりを考えて生涯学習の推進をしていく。 他地域からの学生が地域を訪れたり、アプリの学習会を多世代で行ったりすることで、人と人が交差できるようにする。
	マイナ		・いまの子どもが未来の地域を作っていく。 ・子ども達の学べる遊べる場所が増えるといいな。 ・地域の組織の役割を次世代につなげる教える場を。 ・空家利用と促進	
(3) あなたもその一人。協働のまちづくり				
地域活動の支援と協働の推進	ブラス	自治協提案事業の実施は今後とも継続して行って欲しい 子育て支援事業の成果 コミ協・自治協で地域活動を行っていることは感じられる 自治協委員に青年部や女性が増えてきている 越前浜地区の定住促進は良かった 定住人口増加促進(越前浜地区) SNSや区報によるPR等、見ている人が多い 情報発信方法が多岐にあるのは良い	地域においての自分の役割がある社会 もともと地域住民の声によりそった「まちづくり」を なんでもペーパーレスは良くない。 ・SNSはいいねの数で全てではない。 ・ツイッターとインスタ拡散効果高い。	地域活動において自治協、コミ協提案事業は有意義であるが、デジタル教室の開催や広報の方法など、地域住民が参画しやすい寄り添った支援と活動内容の見直しが求められる。
	ナマ	デジタル教室の開催が無い 地域活動の補助金利用は、まだ住民に知られていない	つながり希薄→解決策は？ 関心が薄い→疎外感	
人材育成	ブラス			暮らしやすい地域づくり、まちづくりのために自治協、コミ協の組織の改革、見直しが必要である。次世代につなげる人材育成を促す機会を考察実践していく取り組みをする。
	マイナ	自治協研修会は内容が大事。このままでは参加者が増えない 自治協委員研修の内容の検討 自治会、コミ協はすでに担い手不足 コミ協・自治協役員の新陳代謝が進んでいない	・地域の組織の役割を次世代につなげる教える場を。 ・自治会役員の平均年齢が若くなる→若い人の声が届きやすい。 ・コミ協、自治協は「代表者」自分たちのものでない。 ・コミ協、自治協は一部の人が参画している組織と思っている人が多い。	
地域のための区役所づくり	ブラス			自治協、コミ協の在り方が問われている。PRの方法を工夫し認知度をあげて透明性の高い組織改革を行う必要がある。支え合い誰もが暮らしやすい生活が送れるように、地域住民に寄り添った地域のための母体であることが求められている。
	マイナ	選出母体(自治協、コミ協)からのフィードバックが感じられない 地域住民の声は意外にコミ協に届いていない 自治協やコミ協の存在を知らない住民が多い 自治協、自治協の認知度が低い。必要性？何してる？ 自治協議会の認知度低い。もっとPR必要 自治会加入率低下	・一人暮らしでも安心な地域に ・地域の課題、声を吸い上げる組織であって欲しい ・地域のためのコミ協 ・自治協が活躍した事案→やる気につながる ・もともと地域住民の声によりそった「まちづくり」を ・出張所にもっと町づくり機能を→関心が高まる ・なにをしているのかわからない ・選出母体の見直しは？ ・声をあげることに対する無力感→コミ協 ・「選ばれる」よりも今いる人を大事に→細かい ・自治協、提案ありきはやめよう、お金もつたいない ・地域のコミュニティの在り方を考える必要あり ・区役所よりも「出張所」単位では？ ・「わたしの」住んでいる区と住民が関心をもってもらえるように ・自治協、土日や夜にしてみようというんな主体が努力	







### IV. 人が行き交う活力あふれるまち【4班】

これまでの取り組み

(1) 西蒲区の実情に合った交通環境の整備

プラスの評価	マイナスの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道の拡充</li> <li>バス停の整備</li> <li>自転車の駐輪場</li> <li>歩道の照明</li> <li>歩道の舗装</li> <li>歩道の幅員</li> <li>歩道の勾配</li> <li>歩道の材質</li> <li>歩道の色</li> <li>歩道の幅</li> <li>歩道の長さ</li> <li>歩道の幅員</li> <li>歩道の勾配</li> <li>歩道の材質</li> <li>歩道の色</li> <li>歩道の幅</li> <li>歩道の長さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道の狭さ</li> <li>歩道の勾配</li> <li>歩道の材質</li> <li>歩道の色</li> <li>歩道の幅</li> <li>歩道の長さ</li> <li>歩道の幅員</li> <li>歩道の勾配</li> <li>歩道の材質</li> <li>歩道の色</li> <li>歩道の幅</li> <li>歩道の長さ</li> <li>歩道の幅員</li> <li>歩道の勾配</li> <li>歩道の材質</li> <li>歩道の色</li> <li>歩道の幅</li> <li>歩道の長さ</li> </ul>

評価の集約

これまでの取り組み

(2) 商工業の振興

プラスの評価	マイナスの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗の増設</li> <li>店舗の改装</li> <li>店舗の拡張</li> <li>店舗の移転</li> <li>店舗の併設</li> <li>店舗の複合</li> <li>店舗の連携</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>店舗の減少</li> <li>店舗の閉鎖</li> <li>店舗の廃業</li> <li>店舗の倒産</li> <li>店舗の撤退</li> <li>店舗の移転</li> <li>店舗の併設</li> <li>店舗の複合</li> <li>店舗の連携</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> <li>店舗の集積</li> <li>店舗の集約</li> </ul>

評価の集約

### V. 人の和でつながる安心・安全なあたがいまち【4班】

これまでの取り組み

(2) 支え合い学び合う人の和づくり

プラスの評価	マイナスの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のつながり</li> <li>地域の協力</li> <li>地域の連携</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の減少</li> <li>地域の閉鎖</li> <li>地域の廃業</li> <li>地域の倒産</li> <li>地域の撤退</li> <li>地域の移転</li> <li>地域の併設</li> <li>地域の複合</li> <li>地域の連携</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> <li>地域の集積</li> <li>地域の集約</li> </ul>

評価の集約

4班

2021.12.23

交通環境  
商工業  
支え合い人の和

トラックですべて解決!!

2021.12.23 西蒲区  
区ビジョンまちづくりの計画WS

### V. 人の和でつながる安心・安全なあたがいまち【5班】

これまでの取り組み

(1) 安心安全で快適な生活基盤づくり

プラスの評価	マイナスの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練</li> <li>防災教育</li> <li>防災意識</li> <li>防災対策</li> <li>防災設備</li> <li>防災用品</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災意識</li> <li>防災対策</li> <li>防災設備</li> <li>防災用品</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> <li>防災グッズ</li> </ul>

評価の集約

これまでの取り組み

(3) あなたもその一。協働のまちづくり

プラスの評価	マイナスの評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会の活動</li> <li>自治会の連携</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会の減少</li> <li>自治会の閉鎖</li> <li>自治会の廃業</li> <li>自治会の倒産</li> <li>自治会の撤退</li> <li>自治会の移転</li> <li>自治会の併設</li> <li>自治会の複合</li> <li>自治会の連携</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> <li>自治会の集積</li> <li>自治会の集約</li> </ul>

評価の集約

5班

2021.12.23  
5班

安心  
安全

防災教育  
訓練  
住民が主体  
地域の声がよく  
空家利用  
お金のつくりかたあり方  
安心安全暮らし

### 3. 参加者のふりかえり

シート回収数 27 枚

#### 〈Q1〉全体の満足度

平均値 4.33

(とても満足した：5 満足した：4 普通：3 不満だった：2 とても不満だった：1として算出)

#### 〈Q2〉Q1でそう思った理由は？

##### ■とても満足した (13名)

- ・前向きな話し合いができたのでよかった。
- ・活発な意見交換が出来た。
- ・ファシリテーターの進行が絶妙であり、グループメンバー全員の意見を引き出した。
- ・久しぶりのワークショップで楽しかった。
- ・ファシリテーターが皆の発言してくださるよう誘導し、楽しく発言できるようになった。まとめについても、よく整理していただいた。
- ・色々話した・出た。考えを発言出来た。
- ・一人一人の考え方、意見がよくでてアイデアもよく広がった。
- ・大変、様々な意見をきけて自分自身大変勉強になった。
- ・皆さんとても活発な意見が出た。
- ・会話の中で、色々な意見・アイデアが多く出た。
- ・みんなで和気あいあいと楽しくいろんな提案をできたのがよかった。

- ・ 普段話ができない方々と話す事ができた。
- ・ 全員が意見をいっぱい出し、ファシリテーターがわかりやすく上手にまとめ理解しやすかった。

#### ■満足した（11名）

- ・ 意見をひろってもらったし、意見を聞いてなるほどなと思いました。
- ・ 皆さんとても熱心に議論していた。
- ・ いろんな話が出て参考になった。
- ・ 地域のことを集中して考える良い機会でした。グループメンバーの意見もとても興味深く、大変楽しかったです。
- ・ 今まで参加した中で感じた自治協自体・西蒲区・ニイガタ市についてのモヤモヤが、話したことで明確になったから。
- ・ 楽しかった！いろいろな意見が活発に出たから。
- ・ 委員間での話し合いができた。
- ・ 自分でも気が付かない色んなお話が聞けた。
- ・ ワークショップを通じて、他部会の委員の話を知ることができた。
- ・ 文化財・歴史的事項を話し合える場所が出来た点。
- ・ 各地域の様子が知れたこと。

#### ■普通（2名）

- ・ワークショップの手法としては普通だった。
- ・各地域の問題点はおおよそ理解出来て、こちらの問題点に同じであった。しかし、それからどうするという話が出て来なかった。

### 〈Q3〉WSでの気づき

- ・安心・安全・住みよいまちにしていくためには、自治会、コミ協の若がえりが必要だと思った。  
地域の声をとどけるために。原発！近かったんだなー考えていかなきゃと思いました。
- ・課題は共通しているのだなと気づきました。
- ・メンバー全員が積極的に参加できる環境づくりが勉強になった。
- ・思った以上に意見がでて西蒲区愛を感じた。
- ・具体的な数値がわからないので正しい判断ができない内容もあったが、色々な意見を聞く事ができた事は良かった。
- ・別の点からの意見があり考えが広がった。
- ・人の話を聞くと良く分かる。
- ・みなさんすばらしい考えをもっていることに改めて今後は楽しみと思いました。
- ・皆さん西蒲区のこと良く考えているんだな～。
- ・話し合いの中で、区の良さが再認識できた。
- ・いつもの自治協では得られない楽しさや充実感があってよかった。
- ・地元の強みと弱みが理解できた。
- ・人口減少とは言うが他の地域、県外の人呼び込んだら何でも盛り上げられるんだという事が

わかった。

- ・ だめだったらすぐにひく事も大事だと思う。
- ・ いろいろな視点があることを改めて認識した。
- ・ 現状を考えれば西蒲の農業も問題山積と思いますが、皆で夢を語ることの大切さを学びました。
- ・ いろいろな思いを持って自治協に参加したり、西蒲区への思いがあるのだと気づいた。みんな思いがあるから、きっと良い方向に行くのでは。
- ・ 西蒲にいつまでも住みたいと思う人の熱意を感じた。
- ・ 夢だけ語ってもだめ。現実と向き合う事も大事。
- ・ 地元に住んでいて感じなかった事を他の人から聞かせてもらった。単なる田んぼだけでも都会の人からは魅力がある。
- ・ 各地域独自の問題を共有する事によって、各自の課題解決につながっていくと思う。
- ・ 各地域の祭事等の問題点が多く有る事。
- ・ 地域には、知らない宝物がまだまだある。
- ・ ファシリの方のカテゴライズのテクニックが上手だった。「トゥクトゥク」ですべて解決。
- ・ 当地域内でも、これからどうするという会議があるが、解決方法がない。
- ・ 地元をよく知っているメンバーだった。

#### 〈Q4〉 WS で嬉しかったこと・残念だったこと

##### ■ 嬉しかったこと

- ・メンバーに恵まれたこと。嬉しかったです。
- ・はじめてワークショップの楽しさがわかった。
- ・お互いの意見が参考になり、まちづくり学校の人のまとめ方に感心した。
- ・皆が発言できた事。8年間の総括ができた。
- ・話を聞くと同じ考え方も有り、共有出来た。
- ・考えているアイデアが具体的に出る。
- ・みなさんの意見をみんながきいてくれたこと。
- ・知らない人と仲良くなれた。
- ・コーディネーターがうまく意見をまとめスムーズに進んだ。
- ・話したことのないメンバーさんと話せたことが嬉しかった。
- ・まちづくり学校の方が入る事によって進行がスムーズに行き、司会は？書記は？と考えなくリラックスして発言出来よかった。
- ・普段あまり話をしない方ともとてもフランクに話ができ聞いたこと。
- ・意見が聞いたことがよかった。
- ・気軽に話し合いができた事が一番。
- ・他地区の人との交流、話し合い、意見を語り合えた。
- ・時間が限られているので、テーマを絞り込んでの議論が出来たと思う。
- ・個人的に多く話し足りた点。
- ・同じ方向を見ている人が多い。西蒲の魅力が多かったこと。
- ・発表が時間内でなんとかうまくまとめられたこと。



- ・地元のためにガンバっている人がいたこと。

#### ■残念だったこと

- ・時間が少ししかない。ディスカッションの時間がもう少しあるとよい。
- ・自分自身の考えがせまかったと思いました。
- ・ワークショップから参加したため自己紹介があっても良かった。
- ・残念なことはなかったです。
- ・時間が足りなかった。
- ・思ったより発表の時間が少ない事。
- ・グループのメンバーが3人も欠席だったこと。
- ・他の課題へ意見をいう時間がなかった。事前でもいいのであるといい。
- ・無いです。
- ・話し合いルールが少なかった。
- ・参加者が少なくなって、取り止めになった伝統文化があるが、それを再度復活させる事が良いのかの判断もつかない。
- ・自己主張や批判だけの人がいたこと。

#### 〈Q5〉 その他、気づいたことなど

- ・素晴らしい機会をどうもありがとうございました。
- ・今後の業務に役立てたいと思います。ありがとうございました。

- ・年に1回は開催すべき。
- ・コロナがおさまらない中で先の事を考える事が難しい事。
- ・初体験で楽しかった。
- ・大変ありがとうございました。
- ・このような場をもうけていただきありがとうございました。また機会があればお願いします。
- ・また参加したいです。
- ・ファシリテーターの手腕は素晴らしいと思いました。各々の意見をグループ化して考えを集約して頂くことで問題がみえてくることを実感しました。
- ・区ビジョン策定時ではなく、ワークショップは定期的にやるべき。目標確認など。
- ・まちづくり学校の方々、ありがとうございました。
- ・西蒲区全体の文化財の保存が必要と思った。
- ・他地域の伝統文化や、特に文化資産について知る事が出来た。
- ・近くのグループの声がもう少し聞こえない方が良い。